

# 経済史Ⅰシラバスと若干の注意

2017年11月20日  
小野塚 知 二

## I シラバス

### 講義の要項・目的

経済史は**現在(いま)**を理解するための有力な方法の一つです。現在の制度、慣行、政策、市場、組織などがいかにして形成され、変容してきたのか、つまり、いまの**経済の起源と来歴**を知ることと、いまとは異なる**経済・社会と比較**して現在の**経済・社会**を相対化すること、これら二点がこの講義の基本的な眼目です。

われわれの生きる現在は**近現代**の末端に連なっていますから、現在を社会科学的に知ろうとする際に重要なことは、近現代の**社会・経済の特質**を、その前史や成立過程とともに理解することです。本講義のⅠでは**経済史学**の課題と基本的な方法を概観し、Ⅱでは前近代(中世)の**社会・経済**との比較から近現代の特質を論じます。Ⅲでは**経済史Ⅱ**(および現代西洋経済史)への導入として、近世(前近代から近代への長い移行期)、近代、現代について簡単に概観します。Ⅳ(担当岡崎)では日本経済を中心に、近世・近代**経済の制度・組織的な基盤**とその機能について説明します。

なお、近世と近代については本郷で開講される**経済史Ⅱ**を、現代(≒20世紀)については経済学部専門科目2の**現代西洋経済史**、**現代日本経済史**などで詳細に講ずるので、本講義では、導入のための**経済史総論**と、近現代社会との比較対象としての**前近代近代**まで扱います。

### 授業計画

- I 導入 —— 経済、社会、人間
  - 1 経済史とは何か
  - 2 際限のない欲望、効率性、分業
- II 前近代
  - 1 総説：前近代と近現代
  - 2 共同体と身分制
  - 3 前近代社会の持続可能性と停滞
  - 4 前近代の市場、貨幣、資本
- III 近世・近代・現代
  - 1 総説：前近代から近代への移行、近代から現代への変容
- IV 日本経済における近世・近代

### 教科書

小野塚知二『経済史——今を知り、未来を生きるために』有斐閣、2018年1月刊行予定。

### 参考文献

馬場哲・山本通・廣田功・須藤功『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2012年、金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会、2010年。このほかの文献については講義開始後にリストをウェブ上に公開し、また、必要に応じて随時案内します。

## その他

12月18日 1限まで小野塚がⅠ～Ⅲを、それ以降は岡崎がⅣを担当します。11月27日午前  
は駒場祭の後片付けで休講となります。

## Ⅱ 配布物

履修上の注意、レポートの案内、その他、講義内容に直接関わらない文書はすべて、ウ  
ェブ上 ([http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/educational\\_j.html](http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/educational_j.html)) に随時公開します(紙ベ  
ースでは配布しません)ので、適宜、参照・印刷してください。宿題と講義評価(諸君の記入  
後に回収する文書)は紙で配付します。

## Ⅲ 質問と相談

質問は講義中随時受け付けますが、時間をとらずに簡潔に答えられること(たとえば私  
の言い誤りや書き間違いなど)に限ってください。その他の質問や相談は講義終了後受け  
付けます。ただし、講義後に時間の切迫した所用があるときは失礼することもありうるの  
で、以下の方法を用意しておきます。

(1) 私の研究室(本郷の経済学研究科棟9階910)を訪ねていただくのが、教養学部の諸君  
にご足労いただくのは面倒で申し訳ありませんが、文献等もその場で案内できるので最も  
適切な方法だと思います。他に用事がない限り本郷には月曜から土曜まで大概来ていま  
すが、講義・会議・その他の用務で研究室にいないことも多く、いても多用で対応できな  
いこともあるので、e-mail ([onozukat@e.u-tokyo.ac.jp](mailto:onozukat@e.u-tokyo.ac.jp)) あるいは郵便(〒113-0033 文京区本郷7-  
3-1 東京大学大学院経済学研究科・経済学部 小野塚知二宛) で事前に連絡して日時を決め  
ておいた方が確実でしょう。

(2) 質問・相談は郵便かe-mailでも受け付けます。すぐに返事を書けない場合もあるし、  
直に会うのと違って何度かやりとりをしないと埒のあかないこともしばしばなので、これ  
は決して手軽な方法ではありません。

(3) 多くの諸君に共通に関係しそうな重要な質疑応答はホームページ上に公開します。

## Ⅳ その他の注意点

私語(および寝言・鼾・歯軋りなど騒音を発する行為)は厳に慎んでください。静かな居眠  
りや内職が目立たないようにする限り、特に咎めませんが、むしろ居眠りや内職を推奨す  
るつもりはありません。また、講義中の出入りや携帯電話なども目障り耳障りなので慎ん  
でください。

このほか、経済学部カリキュラムにおける経済史の位置、参考文献と講義の関係、単位  
取得の条件、成績評価の方法、任意のレポート、高校の日本史・世界史との関係、講義評  
価等々については、後日、あらためて案内します。